―栗山の未来を語る―

まちづくり懇談会

町民の声を広く行政に反映させることを目的とした「まちづくり懇談会」が10月～11月にかけて、町内23会場で行われました。前半は佐々木学町長が、「これからのまちづくり」についてスライドで説明。

後半は説明内容の質問・意見への回答、自由懇談を通し「栗山新時代」に向けて語り合いました。

熊の対策について

問 近年、熊による人的被害が増加していて、人を恐れている様子もない。町の熊対策はどのようになっているのか。

答 今年は町内で5月に1件、9月以降に14件の目撃情報がありました。役場に連絡が入り次第担当が、現地に出向き猟友会と連携を取りながら、看板の設置や広報車での注意喚起を行っています。人的被害・農業被害が出ないように山へ追い返す形での対応が基本となっています。

介護福祉学校の生徒確保について

問 町内で働ける場所がないと生徒は卒業後、町外に出てしまう。町内で就職できる環境を作った方が、介護福祉学校の入学者も増えると思う。

答 奨学金制度を設けるなど、町内で働ける環境づくりを進めています。また、栗山高校や大学との連携、自治体との包括連携の拡大などさまざまな視点で学生確保に努めていきたいと考えています。

夕鉄バスの廃止について

問 夕鉄バスが廃止されたことで、札幌の病院への通院がとても不便になった。駅まで行ければバスやＪＲに乗り継ぎ札幌まで行けるが、駅まで行く手段がない。

答 駅まで行く町営バスは運行していますが、時間帯や乗り継ぎ時間が合わない部分も出てきています。現在、町営バス見直しの最終検討に入っているので、夕鉄バス廃止と中央バス減便の関係も踏まえて、皆さんの利用しやすい運行を検討していきたいと思います。

人口減少対策について

問 どこの自治体も同じ問題を抱えていると思うが、栗山町では令和5年10月時点で人口が1万1000人を割っており、5年後には1万人を下回る予測もできます。人口減少に歯止めをかける考えがあれば教えてほしい。

答 企業誘致や移住定住対策などを行い、人口減少は止められないまでも少しでも減少幅を抑えていく努力をしていきたいと考えています。現在、栗山町の経済を支えている年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の割合は合わせて60％程度でバランスを維持していますが、6～7年後には老年人口（65歳以上）が生産年齢人口を上回る予測があります。今後は、人口減少対策と生産年齢人口を増加させるための効果的な事業を検討していきたいと思います。

栗山赤十字病院の改築について

問 栗山赤十字病院（以下、日赤病院）の改築は長い期間であるが、事業費が増えた場合はどのような対応となるのか。資材も高騰している状況なので、心配している。

答 建築費用に関しては町が全額補助し、日赤病院が支出する仕組みです。町は全額国からお金を借り、7割は交付金として町に入り、3割は日赤病院が返すので町の実質負担が増えることはありません。資材高騰などで金額が増える場合は、事業費を見直しながら改築を進めていきます。

町内のエアコン設置状況について

問 今年は近年にないとても暑い夏でしたが、町内の公共施設や小中学校のエアコンの設置状況はどうなっているのか。

答 各学校の教室には国の交付金を活用しながらエアコンを設置しました。地球温暖化で人体に影響を及ぼす可能性が大きいということがあるので、公共施設においては、町民の方が集まるスペースや災害時の避難所など、3～5年の計画で設置を進めていきたいと考えています。

※紙面の都合上、懇談内容の一部のみを掲載しています。町ホームページでは、懇談会の議事録や町からの情報提供資料を閲覧できます。

町ホームページはこちら↓

情報提供内容

町からの情報提供として、下記の内容を説明しました。
①これからのまちづくり
②ごみ分別内容の変更
③関係機関・団体からの質問・意見に対する回答